

探 究

探究 Co 便り 文：伊藤

令和6年9月9日(月)

NO. 7

子供が草取りをちゃんとやらない



夏休み中の藍畑の草刈りのことです。手伝いの保護者の方が真剣にはたらいっている一方で、肝心の子供たちはお話半分、遊び半分で、仕事に身が入っていない様子でした。見かねた保護者の方も「子供たち全然草刈りやっていませんよね」と一言、大変申し訳ない思いでした。こうした子供たちの現状にどう声をかけようかと私も思案していたある日の総合の時間、KEさんが突然立ち上がって友達に問いかけたのです。

「草取りをやってもちゃんとやらない人があるのは、藍を育てて最終的に何を達成したいのか、最後のゴールがはっきりきまっていないからじゃないかな。だから、まずはそのことをちゃんと話し合った方がいいと思う」



その言葉に子供たちは大きくうなずくと、その場で話し合いがはじまりました。「僕は最後に『型染め』をしたい」とWSさん。「型染め」は県内では唯一「浜染工房」に伝わる藍染の伝統技法です。続けて『浜染工房』のことを大勢の人に知ってもらって後継者が出るようにしたい」とHGさん。子供たちは、「浜染工房」の後継者や施設の維持管理の問題など切実な現状を知っていました。そして自分たちにできることはないのだろうか、かねてから話題に挙がっていたのです。意見が割れたのは「販売活動」についてです。自分たちでつくった藍染の作品を販売し、その収益で浜染工房の浜さんに貢献したいと考える子がいる一方で、それは絶対にやらない方がいいと強く反対をする子もいました。浜さんがお金をもらって本当にうれしいのか。自分たちが藍染のことを学んだり体験したりすることそのものが浜さんの願いではないのかとその理由を説明します。すると、浜さんのためではなく自分のために「販売活動」をしたいのだと言い切る子もいました。



時間が足りず、話し合いは次回に持ち越しましたが、藍染の活動への期待と気持ちの高まりを確かに感じた時間でした。そして今は、草取り以上に大変な愛の葉の収穫と乾燥葉作りの仕事に日々汗を流し、向き合っています。